

2003.03.10：平成15年度 予算等審査特別委員会（第9日目）

委員長

ただいまから予算等審査特別委員会を開会いたします。

本日は、村上一彦委員から欠席の届け出がありますので、御報告申し上げます。

それでは、これより質疑を行います。

まず、第15号議案平成15年度仙台市一般会計予算第1条歳入歳出予算中、歳出第9款教育費、第2条債務負担行為中、学校建設事業、仮設教室借上事業、天文台移転建設推進事業、文化財整理収蔵室借上事業、第3条市債中、学校建設費、文化財保存事業費、市民センター建設費、第56議案仙台市体育施設条例の一部を改正する条例についてであります。

民主フォーラムから発言予定の方は、質疑席にお着き願います。

池田友信委員

委員長、一部関連しまして他部局にお伺いすることをひとつよろしく願います。

持ち時間もなくなっておりますので、ちょっとはしよるかもわかりませんが、ひとつ明快な御答弁をよろしくお願ひしたいと思います。

本会議の中で先輩であります小池議員が、32年間の総括の中で美術館の御質疑をされました。私も質問する予定でありましたが、この特別委員会にゆだねましたので、あわせてお伺いするわけでありませうけれども、その御答弁の中では仙台市の美術館については博物館、県の美術館、メディアテークのそれぞれの役割分担があつて、そして財政状況も勘案すると将来いろいろこれからの中で美術館の概念も大きく変わってくるだろうと。今後の本市の美術館のあり方を考えていきたいというだけで答弁は終わっているようですが、大変残念でなりません。したがいまして、まずそのメディアテーク設置の趣旨についてお伺いします。

生涯学習課長

メディアテークにつきましては、図書、映像などさまざまなメディアによる情報提供及び美術映像文化の発表の場の提供、それとまたすぐれた芸術作品の鑑賞の機会の提供等を目的として設置しているところでございます。

池田友信委員

大体そもそもこのメディアテークの建設については、昭和50年に開設しまし

た仙台市の市民ギャラリー、いわゆる間借りをしたダイエーの7階でありまして、これが手狭な状況、期限が切れるという状況の中で、15年前に宮城県の芸術協会の陳情の中で、大型ギャラリーを併設した仙台市の美術館の建設をしてほしいという陳情を受けまして、実は10年前の平成4年に美術館でなく大型ギャラリーという形になって、この市民ギャラリーの建設検討委員会の中でもいろいろ論議されまして、そしてこのメディアテークが進んだわけでありませんが、その10年前の建設検討委員会の中においても、全国規模の巡回展などが可能な大型ギャラリーを建設するとともに、将来市民美術館の建設を前提として作品収納庫を考えると、あるいは美術鑑賞等の機会の充実をする啓蒙事業の充実です。こういう流れになってきておりまして、特にこの中では大型ギャラリーは中止になるけれども、美術館については郊外に建設を考えようという形の平成4年の市長の答弁があります。そう私は記憶しているんですが、こういった流れで美術館についての考え方については、その後どのような検討をされておられるのか伺いたします。

生涯学習課長

ただいまございましたように、平成元年に宮城県芸術協会からギャラリーを併設した市立美術館の建設要望をいただいた経緯がございます。その後、平成4年度に新市民ギャラリー建設検討委員会におきまして仙台市新市民ギャラリー基本構想を策定されましたが、市立美術館につきましてはこの中におきまして将来的課題として整理をされ、今日に至っているものと認識いたしております。

池田友信委員

質問ははしよりますが、答弁はゆっくり簡明にお願いしたいと思います。いわゆる美術館の考え方というものはこの中であったわけですね。そういうことについてはずっと踏襲されているんですかということを知りたいです。

生涯学習課長

平成4年度の仙台市新市民ギャラリー基本構想におきましては、ただいま委員からお話ございましたようにございました。その中におきまして、先ほどお話し申し上げましたが将来的課題として整理をされ、私ども今日に至っていると、このように認識いたしているところでございます。

池田友信委員

では具体的にその後ずっと考えて考えて考えて、15年前から具体的に何か市立美術館に対する構想とかは何かお持ちですか。

生涯学習課長

こちらにつきましては、先ほども平成4年というお話がございましたけれども、その後仙台市におきましてはメディアテークを建設いたしまして、この中でギャラリー構想というものを持ちまして至っておりますので、先ほど申し上げましたようにその時点で将来的課題ということで整理されて、今日に至っていると考えております。

池田友信委員

簡単に言えば将来の課題で終わっていると。こんな形でしか受けとめられませんが、課題はたくさんあると思うんです。いろいろな財政上の問題を含めてあるんですが、財政上の問題で考えることも、必ずしもこれからの美術館というのは全部丸抱えで公設公営でやるという形でなくて、いろいろな方法があると思うんですね。公設民営もあるし、いろいろな形で民営からの協力で成り立つという考え方もあると思うんですが、そういった意味で財政的な状況の運営も含めて、どんな形で御検討されているんですか。

教育長

市立美術館構想につきましては、ただいまおっしゃいましたようにいろいろな考え方、工夫の方法があるとは思いますが、先ほど来課長が御答弁申し上げているとおり、長期的な課題として今までとらえてございました。これからもこの課題につきましては、早急に建設するということにはなかなかいかないのではないかと認識いたしているところでございます。

池田友信委員

遅々として進まない状況は、例えばこの仙台市の美術館ということについての担当部局は、ではどこなのでしょう。こういうことに対する政策論議をする場合は教育局ですか、それとも市民局になるんですか。

教育長

現在のところまでは教育局でございます。

池田友信委員

今後はどこですか。

加藤助役

メディアテークにつきましては、池田委員がおっしゃいましたようにいろいろな議論があった上で、一番今急がなくてはならないのは何だという形の中から、ギャラリーホールがぜひ欲しいという形で、相当整備されたギャラリーをあそこに建設した経緯がございます。当時、美術館という要望もあったわけですが、これはやはりそれぞれの役割分担と……。県立美術館、博物館そしてやはり一番欠けておるのはこの地域においてはメディアテークにあるギャラリーホールということで、建設した経緯がございます。それは、市民の皆さんの御要望あるいは我々の中にも美術館も欲しいものだなという意識は十分あったわけですが、先ほど来教育委員会の担当の方から答弁申し上げたような状況で今日に至っているというわけがございます。

ただ、池田委員が御提案されているような運営手法とか整備手法とかそういうものを、やはり知恵を出し合って何らかの形で可能性が見出せるものであれば、財政的な事情、財政上の優先順位を十分配慮しながら、いわゆる可能性がゼロではございません。ただ、現実的に従来のような手法で考えた場合は、やはり長期的な課題ということにせざるを得ないと。これは、明快に答弁することができないということになるわけがございます。

ただ、やはりそれでは身もふたもございませんので、私どもといたしましては先ほど来あるいは本会議でも市長が答弁申し上げましたような形で工夫を加えながら、何らかの方法でできるだけ中長期的な視点で対応してまいりたいと考えておるところでございます。

池田友信委員

ほかと比較するとあれですが、政令都市はほとんど美術館を持っています。県の美術館を持っている中で市も持っている。横浜の例を申し上げますと、22年前に構想を打ち出して、そして14年前にこれを開設しているんですね。これも呼びかけたら1,000社の民間の協力でもって財団でスタートしているんです。したがって、そういうことを考えますと仙台市のこの美術館というのは、単なる今までの収蔵だけでなく新しい形の方法を考えるならば、民間の知恵も出る、財源も出る。いろいろな方法で文化の拠点ができると思うんです。

名古屋でポストン美術館の分室を誘致して、そこをまちづくりの一つの核にしてそこでつくっているんですね。仙台だって考えたら考えることができると思うんですよ。そういうことを考えますと、まずその構想を含めてどこが主管となってそういうことを考えるのかということが、先ほどからいってもどこもはっきり出ません。市民局と言ったら、市民局の方では音楽、芸術、演劇はこれから市民局が担当します。美術館ということの考え方の政策論議はどこにするのかということ、教育局ですか市民局ですか、これをはっきり答えてくだ

さい。

加藤助役

この4月から発足させます装いを新たにする市民局の中で、その辺につきまして十分検討させていきたいと思えます。

池田友信委員

現在は所属なしということになると、どこにも所属ないのは総務局が所管するということなんですか。

加藤助役

現在はやはりメディアテーク、ギャラリーホールとの一体性ということで、教育局で所管をしまいたったということは事実でございます。4月から文化スポーツ部で検討させたいと考えております。

池田友信委員

今までは教育局、これからは市民局になるということでございますから、市民局の方でこれから論議をいろいろやっていきたいと思えます。

そこで文化スポーツということを考えますと、確かに市長はこれからそこに力を入れるということはわかるんです。特にスポーツの部分については、本会議の中でも質問させていただきました。これから市民の総合型地域スポーツクラブをつくるという形で、スポーツ団体の皆さんにぜひ地域の中で協力してくれと。こういう形で市長がオーダーを出して、市長がその最高責任者になって受けて、ではそれぞれ区ごとに体制をつくると。

こういう形で今スポーツの団体を市長みずから取りまとめていただいておりますが、残念ながら文化の部分については、仙台市文化協会とか仙台市をエリアとした文化団体が育成されていないんですよ。これについては民間の協力の問題もあるでしょうけれども、長い間そういう方に対するオーダーをしたり、あるいは政策論議をしたり、協力体制をつくったりという関係になかったということは事実ですね。宮城県芸術協会にゆだねられているというのが現状なんですよ。仙台市の文化団体ということについて、仙台市の文化の政策について、民間の力と知恵をお貸しくださいと、参加してくださいという体制がないということについて、市長はどういうふうにお考えですか。

市長

メディアテークのギャラリーの新設に際しましても、宮城県芸術協会の力添え

あるいは知恵を十分におかりして、あのレイアウト等につきまして参考にさせていただきます。これからの都市文化あるいは都市芸術文化と申しますか、そうした領域の問題を考える場合にも、これは余りにもすそ野の広い領域を持ちますので、また芸術文化というのは時として現在にとどまらずに未来を先取りするような、そうした内容も含む問題でもございますので、やはりこれからは行政の基本になります行政と市民とのパートナーシップ、これを基本にして進めていくのが最も基本になろうかと思えます。

その際には、やはりおっしゃったような民間のお力、たまたま今はこのような経済情勢にございますので、一時燃え上がった企業の社会貢献でございますメセナというものが今は冷え込んでおりますが、いずれまた助力をお願いいたしまして、仙台市の芸術文化の向上に、そしてまた精神的な豊かさの確保に対しましても、私どもと一緒に努力していただくようにしてまいりたいと思えます。

池田友信委員

財政的にもこの厳しい状況はわかりますが、こういうときだからこそ待つのではなくて新しい発想で攻めていく。そして財源を外から持ち寄ってこさせると。こういう政策を今しないと、待っていたのではだめだと思えますよ。

私は開府四百年のことの総括を本会議で聞きました。この聞いた理由の背景の一つには、伊達の時代に伊達文化があったんです。世界に誇る伊達文化があったんです。それを見失ってはいやしないかということ私を非常に憂えている一人でありまして、ぜひそういう中で仙台市がほかにはない国際的な交流を持っているのではないですか。市長は昨年イタリアに招かれたんですよ。イタリアの政府に招かれて、そういうパイプをつくられた。これはサッカーだけの問題ではなくて、400年前の伊達政宗が国際的に交流をしてそういうパイプがあるんです。

ですから名古屋でボストン美術館を誘致したならば、私はこの400年の交流とイタリアから招かれたその特別な仙台市の市長として、これからこういう文化環境の中でお互いに分室をつくりませんか。仙台市で箱をつくります。そしてイタリアの美術館の関係の分室を仙台でやって交流しましょうという意欲があるならば、私は新しい構想ができると思えますね。活性化ができると思えますよ。それがシティセールスにもなります。

そういう新しい発想でいかないと、私はこれからこの経済対策も含めて仙台の活性化ということも含めていくと、こういう文化問題をずっと担当もなくずるずるいったのでは、私は発展はしないと。ぜひこの機会に、今まで培った市長の国際的なそういった交流を含めて新しい伊達の文化を掘り起こして、仙台

市の国際的な文化の拠点となるようなセンターをつくって、市民も参加して力をかりて活性化するまちづくりにつなげるような、そういった方向を目指していただきたいと思うんですけれども、市長の御所見を伺って終わります。

市長

イタリアとの400年の交流がございまして、そうしたきずなを大事にしてこれまでも博物館を中心とした相互の文化交流を行ってきましたけれども、池田委員のおっしゃるように昨年はイタリアとのより深い関係ができ上がりましたので、これからさらに交流を深めながら、おっしゃるような実現に向けてさらに模索をしてまいりたいというふうに考えます。